

幼児の制裁としての攻撃に対する善悪判断と特殊抑止機能に関する認知

—社会・道徳的な話し合いを通して—

越中康治

(みづき保育園・広島大学大学院教育学研究科)

社会心理学の分野における研究から、制裁としての攻撃（違反者に対する罰としての攻撃）は、公平回復（違反者に制裁を加えることによって違法者との間に公平を回復する）、特殊抑止（違反者の違反行為に対する動機づけを低減させる）等の社会的機能を有し、攻撃行動であるにもかかわらず正当化されやすいことが明らかにされている（大淵，2000）。幼児を対象とした研究においても、制裁としての攻撃に対する善悪判断は一様でなく、全体として、よいとも悪いともいえないと判断される傾向にあること（越中，教育心理学研究 投稿中）、自らが攻撃被害を受けた際、第三者が加害者に制裁としての攻撃を示した場合に、幼児は「嬉しくなる」と回答する傾向にあること（越中，発達心理学会 2003）などが明らかにされている。幼児も、成人と同様、制裁としての攻撃が公平回復機能を有すると判断し、制裁としての攻撃を正当化する傾向にあることが示唆される。しかしながら、制裁の特殊抑止機能に関する幼児の認知については明らかにされていない。

違反者の行為を矯正するために制裁としての攻撃を示すべきか否かという問題は、一種の道徳的ジレンマ（相反する主張、見解が認められる状況）である。「懲らしめるために攻撃を加えることは有効である」「攻撃を加えることは逆効果である」「いかなる理由からも攻撃を加えるべきではない」など様々な判断がなされる可能性がある。本研究では、幼児の制裁としての攻撃に対する善悪判断と特殊抑止機能に関する認知との関連を探ることを目的として、社会・道徳的な話し合いを行った。

方法

著者が勤務する保育園に在籍する年中児、年長児 8 名（男女各 4 名：平均月齢 61 ヶ月、月齢範囲 55 ヶ月～66 ヶ月）を対象として、男女別に仮想のジレンマについて話し合いを行った。まず、主人公（男児では「太郎くん」、女児では「花子ちゃん」）が、いつもクラスのお友達のことを叩いて泣かせているという物語を提示した。そして、「お友達に意地悪しないで」と言って主人公を叩いたら主人公が意地悪しなくなるか否か、さらに、叩くことがよいことか否か、挙手により回答を求めた。その後、この問題に関して、自由な意見及

び理由づけを求めた。De Vries & Zan (1994) の「社会・道徳的な話し合い」を参考にして、以下の点に留意した（①意見の相違が無理なく見つけられるような問題を選ぶ。②子どもにジレンマのあるお話を何度でも読み聞かせる。③子どもがお話の中のあらゆる視点を認識するよう援助する。④自由に答えられる質問をする。⑤保育者が繰り返し言うことによって、子どもたちが自分たちの考えを明確にできるよう援助する。⑥あらゆる意見と立場を受け入れる）。なお、対象児は、園で日常、いかなる理由があっても人を叩いてはいけないと指導されている。話し合いには、雑談を含め、男女各 30 分程度を要した。

結果

話し合いの流れ及び幼児の主要な発言を以下に記す。男児を B1～4、女児を G1～4 と表記し、その発言を「」内に、著者の発言を（）内に記した。

男児の話し合い

(1) 挙手による回答

制裁肯定派（意地悪しなくなる、よいこと）：B1,B2,B3

制裁否定派（意地悪する、悪いこと）：B4

(2) 話し合いの内容

B1,B2,B3 に（叩くのはどうしてよいことなの？）

B1「自分がね、どれだけ痛いかを、確かめる」

B2「叩いたらね、太郎くんやめと思うけん」

B1「叩くのはしょうがないかもね」

B4 に（叩くのはどうして悪いことなの？）

B4「（太郎くんが）かわいそうじゃけん…」

（確かに叩いたらかわいそうかもしれないね。でも、みんなは叩いた方がいいと思うの？）

B1「んー、悪いことするけん（叩いた方がいい）」

（悪いことしたら、叩いてもいいの？）

B2「（叩いたら）ダメ」（制裁肯定→否定）

B1「やり返すしかない」

B2「…3 回やり返すしかない」（再び制裁肯定）

B3「（やり返さなかったら太郎くんが）パッチンするかもしれん」

（太郎くんがお友達のこと叩くのはいけないんだよ
ね？ みんなが太郎くんを叩くのはいいの？）

B1「いいこと！」

B2「わるいこと！」（再び制裁否定）

B2に(どうして?)

B2「だってね、やめてって言ったらね、(叩かなくても太郎くんが意地悪を) やめてくれると思うもん」

B1「(太郎くんが意地悪していることを) ○○ちゃん(保育補助者)に知らせるしかない…」(制裁に否定的となる)
(B3くんはどう思う?)

B3「(太郎くんを) もう一回ゴチンする」
(やっぱり太郎くんを叩いた方がいいのかな?)

B4「ダメです」

B1「ダメだよやっぱり」

B2「叩いたら越中くん(著者)とかに怒られる」

B1「もし叩いたら、あっち(太郎くん)からも叩かれちゃう」

(そういえば、アンパンマンって、悪いことしたバイキンマンにアンパンチするよね? みんなもアンパンマンみたいに叩いていいのかな?)

B4「(それでもダメ。太郎くんが) またやり返すから」

B3「(でも) だって、やめてくれるかもしれない」

B1「叩いた方が機嫌直すかもしれない」(「太郎くんが反省するかもしれない」の意か?)

B4「だってね、叩いてもしょうがないから…」

B1「ダメ。ダメだけど(叩くのは) しょうがない」

B2「叩いたらダメじゃけんね、みんな泣くけんね、やめたほうがいい」

女児の話し合い

(1) 拳手による回答

制裁肯定派(意地悪しなくなる、よいこと): G1

制裁否定派(意地悪する、悪いこと): G2,G3,G4

(2) 話し合いの内容

G1に(叩くのはどうしてよいことなの?)

G1「痛いから(意地悪をやめるかもしれない) …」

G2,G3,G4に(叩くのはどうして悪いことなの?)

G3「だって、(仕返しに自分も) 叩いたんだもん」

G2「えっとねー、(自分も) 叩いたけん…」

G4「…」

(そういえば、アンパンマンって、悪いことしたバイキンマンにアンパンチするよね? みんなもアンパンマンみたいに叩いていいのかな?)

G1「(叩くのは) いいことだと思う。(花子ちゃんも) 悪いことするけん」

G2「だって、もう(花子ちゃんが) 叩かないようにせんといいけんけえ、叩いたらやめるかも知れんけん(叩くのはよいこと)」(制裁否定→肯定)

G3, G4(首を傾げる。意見を求めるが発言せず)

G2「あと、もう1つあるんじや。えっとね、叩いた

らダメ。人(花子ちゃん)も痛いけん」(再び制裁否定)
(やっぱり叩かない方がいいのかな?)

G1「(花子ちゃんが) 叩いたけんね、やり返した…(方がいい)。(著者: どうして?) 意地悪せんようになる」

G2「(でも) 自分も叩かれたくないから…」

(G3ちゃん,G4ちゃんはどう思う?)

G4(首を傾げる)

G3「グーでやったら(いけないと思う) …」

G2「パーはいいけどね」(再び制裁に肯定となる)

G1「やさしくやったほうがいい」(態度が軟化)

(やっぱり花子ちゃんを叩いた方がいいのかな?)

G2「叩いたら、みんな花子ちゃんのこと大嫌いになるけん、叩かん方がいいって(教えてあげた方がよい)」

G1「(でも) 話、聞いとらんかったらね、叩く」

(話を聞かなかつたら叩いてもいいの? 本当?)

G2「ほんまよ」(G1,G4は同意して頷く。G3は首を傾げる)

(やっぱり花子ちゃんを叩いた方がいいのかな?)

G1「叩くのはよいが) すごい勢いで叩いたらいいけん」

G2「(でも) 1歳さんとか2歳さんがね、真似するかも知れんけん(叩くのはよくないかもしれない)」

G1, G3, G4(頷き同意する)

(叩くのはいけないことかな?)

G2「ほんまはいけんよ」

(いいときもあるの? どうして?)

G2「だって、花子ちゃん、本当は自分で(自分のことを) 叩くかも知れんけん」

考察

男児では、制裁肯定派が優勢であり、違反者に対する制裁の特殊抑止機能を肯定的に評価する発言が多く見られた。一方、女児では、制裁否定派が優勢であったが、違反者に対する制裁の程度、違反者の反応などの状況要因によっては制裁を許容できるという発言が多く見られた。この結果は、日本の幼児が、攻撃行動を慣習領域の行為(行為自体が善悪を規定する性質を持たない)としてとらえていることを指摘した先行研究(Killen, & Sueyoshi, 1995)と一致する。特に制裁としての攻撃が特殊抑止機能を有すると判断する者は、一貫して、制裁としての攻撃をよいこと、やむをえないことと主張する傾向にあった。なお、こうした傾向は、面談において、過去にしつけとして体罰を用いていたことが確認されている家庭の子どもに強く認められた。攻撃を許容しない道徳性を培う上では、家庭・園において攻撃行動が問題解決を行う上で有効な手段でないことを幼児に伝え、大人も自ら実践することが重要であると考えられる。